

病 理 診 断 科

1. 目的と特徴

人間性に豊み、幅広く柔軟な見識、医療に対する使命感と責任感をもち、病理診断学に関する幅広い知識を習得し、それらの知識、病理学的手法を臨床医学に応用できる医師を育成する。結果として、病理専門医、細胞診専門医取得等を可能とする。

2. 指導スタッフ

病理診断科部長（教授・基幹分野長）長嶋洋治
准教授 山本智子、種田積子
講師 吉澤佐恵子

3. 研修施設

基幹施設：東京女子医科大学病院病理診断科
関連講座：東京女子医科大学病理学人体病理学・神経病態科学分野
連携施設：東京女子医科大学附属足立医療センター、東京女子医科大学附属八千代医療センター、横浜市立大学附属病院、聖路加国際病院、公益財団法人東京都保険医療公社東部地域病院、横須賀市立横須賀共済病院、国立成育医療研究センター、東京都立神経病院、公立阿伎留医療センター、がん研究所有明病院

4. 研修カリキュラム

A：一般目標

病理診断を通して臨床各科との連携を構築し、使命感と責任感を有し見識ある病理診断医となるために、病理診断学に必要な基礎知識、病理学的手法を修得し、医療に貢献する熱い心を身につける。

B：行動目標

- 1) 病理診断に必要な基礎知識を修得する。
- 2) 病理検査のために提出された標本から組織学的検査に必要な切片の切り出しを適切に行う。
- 3) メディカルスタッフと協力し質の高い病理標本の作製をめざす。
- 4) 病理診断に必要な特殊染色・免疫染色について理解し、適切に選択する。
- 5) 臨床情報を十分に把握し、より正確な病理診断をめざす。
- 6) 指導医のもとに適切な病理診断報告書を作成する。
- 7) 術中迅速診断の目的・方法を理解し、指導医とともに診断ならびに報告を行う。
- 8) 細胞診について細胞検査士とディスカッションし、指導医とともに診断報告書を作成する。
- 9) 医療安全管理の基本を理解する。
- 10) 各種カンファレンスに参加して適切な討論をする。
- 11) 学会発表、学術論文を作成する。
- 12) 初期研修医や学生に適切なアドバイスをおこなう。

C：年次別研修スケジュールと研修内容概略

	研修場所	内 容
1年	病理診断科	病理組織診断、迅速診断、細胞診断
2年	病理診断科	病理組織診断、迅速診断、細胞診断、学会発表
3年	病理診断科	病理組織診断、迅速診断、細胞診断、学会発表、論文作成

D：週間予定

	午 前	午 後
月	迅速診断、細胞診、病理組織診断、手術検体切り出し	
火	病理科カンファランス、迅速診断、細胞診、病理組織診断、手術検体切り出し、剖検カンファランス、婦人科カンファランス(月 1 回)	
水	迅速診断、細胞診、病理組織診断、手術検体切り出し、血液カンファランス(月 1 回)	
木	迅速診断、細胞診、病理組織診断、手術検体切り出し、呼吸器カンファランス(月 1 回)	
金	迅速診断、細胞診、病理組織診断、手術検体切り出し	
土	迅速診断、細胞診、病理組織診断、手術検体切り出し	

E：評価

病理指導医あるいはメディカルスタッフから随時形成的評価を受ける。

病理診断レポートは症例ごとに指導医のチェックの上、病理診断科全体会議での検討、フィードバックを受ける。

5. 後期臨床研修修了後の進路

後期臨床研修修了後、東京女子医科大学病理診断科および連携施設に就職を希望するものは、病理診断部長と相談の上、進路を決定する。

6. 学位

研究論文が掲載された後、病理診断部長および関連講座（病理学教室）教授・基幹分野長との協議のもと、学位の申請をすることが可能である。臨床大学院入学者は 4 年間で研究を終え、研究論文を投稿し学位を取得できる。

7. 専門医

病理専門医を期間中に取得する。細胞診専門医、分子病理専門医の取得も可能である。

8. 問い合わせ

〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学病院 病理診断科

長嶋洋治

TEL：03-3353-8112（内線：25226）

FAX：03-5269-7358

E-mail：nagashima.yoji@twmu.ac.jp